

元気なまちづくり 2

賑わいと活力あるまちを創ります

2025年の大阪・関西万博を契機に、本市の特産品を市内外にPRすることで本市の良さを売り出します。また、地域資源を生かした観光ルートを民間の活力も利用しながら確立することで、人の流れの創出と、交流人口の増加に取り組めます。農業においては、地域の特産品づくりや農産物のブランド化を進め、さらに販路開拓を支援することで、地域の稼ぐ力を促進します。また、農業振興条例に基づく施策の展開により、耕作放棄地や遊休農地の再利用など農村環境の整備に努め、魅力ある農業の振興に取り組めます。



◀ふるさと納税の返礼品 あんぽ柿(左)、ブドウ(下)



▲インターネットを活用した柿のPR

▲工場や倉庫などの建設が進む企業誘致

雇用の創出については、就労ニーズのある企業の誘致を進め、雇用を促進するとともに、誘致企業と地元企業とのマッチングを推進し、インターネットなどを活用した販売促進など地場産業を活性化し、誘致に伴う地域経済への波及効果を創出します。また、市内各所における交流レクリエーション拠点を充実させることで、市民の交流や余暇活動の満足度が向上するよう努めます。さらに、自然豊かな橋本市の魅力を発信し、UIJターンや新婚生活の支援などにより、移住定住を促進します。

元気なまちづくり 3

教育との連携により子育てにやさしいまちを創ります

子どもを取り巻く課題が多様化・複雑化する中で、すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、効果的・多面的に支援する必要があります。 「子どもの居場所づくり」の拡充にも注力し、子ども食堂や学習支援、また高齢者などの居場所としても活用できるよう、子どもと高齢者への対策が融合した取組みに発展させたいと考えています。

子育て家庭への経済的な負担を軽減するため、医療費助成の対象を高校生まで拡充し、多子世帯の保育料



◀幅広い世代が集う子ども食堂

を無償化します。さらに、子どもの難聴・弱視に対する支援を行うなど、より安心して子育てができる環境整備に努めます。 また、少子化が進む一方、さまざまな方面からの支援を必要とする子どもが増えています。これまでの公設民営や公私連携方式のことも園整備などの経験を生かし、公設公営となる(仮称)紀見こども園の整備を行い、市内の幼児期の教育・保育サービスの充実を努めます。引き続き、市民協働によるきめ細やかな家庭教育支援に取り組むとともに、子ども食堂や学習支援の場を中心とした子どもの居場所づくりを市内全域に展開できるように取り組みます。



▲家庭教育支援チーム「ハスティア」との市民協働による子育て支援

元気なまちづくり 4

地域全体で支え合えるまちを創ります

地域力を高めることにより、子育てや災害への備え、ごみ対策などへの取組みにつなげ、地域主体のまちづくりを推進します。持続可能でよい良い地域社会を実現するために、行う活動を支援するため、持続可能な地域コミュニティ発展交付金(通称・SDGs交付金)を創設し、住民自治の振興および市民協働によるまちづくりを推進します。 少子超高齢化が進む中、子ども、高齢者、障がい者などがさまざまな課題を複合的に抱えている場合があ

り、多様な方面からの支援を必要としています。このニーズに対応するため、関係部署が連携し、それぞれの専門分野を生かした重層的な支援ができるよう、体制を強化します。 また、第3次橋本市男女共同参画計画の推進により、女性の活躍に向けた取組みを進めます。 さらに、誰もが生きやすい社会の実現を目指して、10月から「橋本市パートナーシップ宣誓制度」を導入します。

子どもたちが未来への夢を抱き、ふるさと橋本への愛着を深めることは、子どもたちにとっても、将来の橋本市にとっても、大きな力となります。 持続可能な開発のための教育(ESD)を推進することで質の高い教育を確保します。また、特色ある学校づくりにより、確かな学力と生きる力を持った心豊かな子どもを育てます。 GIGAスクール構想に基づく教育環境の整備については、今後も、

ハード・ソフトの両面から進め、ICT教育を推進し、デジタル教科書の活用やリモート学習など、さまざまな教育の機会を確保に努めます。生涯学習施設の整備については、紀見地区公民館、郷土資料館、あさもよし歴史館を統合した複合施設を整備し、地域の公民館活動の充実と文化財や歴史資料の活用を図ります。 また、世界的数学者「岡潔」博士の業績を多くの皆さんに知ってもらうため、未来に伝承していくため、数身体験館を整備します。

元気なまちづくり 6

人が学びあい共に育むまちを創ります

子どもたちが未来への夢を抱き、ふるさと橋本への愛着を深めることは、子どもたちにとっても、将来の橋本市にとっても、大きな力となります。 持続可能な開発のための教育(ESD)を推進することで質の高い教育を確保します。また、特色ある学校づくりにより、確かな学力と生きる力を持った心豊かな子どもを育てます。 GIGAスクール構想に基づく教育環境の整備については、今後も、

ハード・ソフトの両面から進め、ICT教育を推進し、デジタル教科書の活用やリモート学習など、さまざまな教育の機会を確保に努めます。生涯学習施設の整備については、紀見地区公民館、郷土資料館、あさもよし歴史館を統合した複合施設を整備し、地域の公民館活動の充実と文化財や歴史資料の活用を図ります。 また、世界的数学者「岡潔」博士の業績を多くの皆さんに知ってもらうため、未来に伝承していくため、数身体験館を整備します。

元気なまちづくり 5

安全安心な暮らしを支えるまちを創ります

防災・減災については、近年、大規模な自然災害が発生する中、避難情報などの防災情報を的確に伝達するため、全世帯に戸別受信機を配布します。また、自身のスマートフォンを使って防災情報をプッシュ型で受信でき、外出時であっても本市の被災状況などが確認できるアプリの導入を早急に進めます。 加えて、消防本部においては、大規模な災害などに備え、消防庁舎の非常用電源機能の強化と長寿命化改

修を実施し、円滑な緊急対応および救急活動を図ります。 また、防災倉庫や資機材の整備を促進するとともに地域防災計画の見直しや自主防災会との連携強化など、実効性のある防災・減災対策に取り組めます。



▲地域での防災訓練

副市長の選任について

平木市長は、4月25日の市議会臨時会において、小原秀紀氏の副市長選任を提案し、承認されました。

就任のごあいさつ

4月の市議会臨時会において同意をいただき副市長に就任いたしました。

先輩方が努めてこられた副市長という職責の重さを考えますと、身の引き締まる思いでございます。非力であることは重々承知しておりますが、平木市長の補佐役として、平木市長が掲げる「元気なまちづくり」を実現し、私が生まれ育った橋本市のさらなる発展のため、全力を尽くします。



▲市議会臨時会であいさつする小原副市長